

好色一代男

好色一代男
全部四冊
百廿九

特別
13
1607
5



18
1607
5



一廻りかゝ代

但一日一夜らと見科同防の座作
け外環うと味線か物取不と茶
薬種柳骨柳中土産物何ぞは
川用古終付て下作

但州湯嶋中庭甚な

好色一代男

巻五目録

卅五歳

はらちの橋付とくよぬ
よの野のあんがいのり

卅六歳

活づいの橋餅
大津果盛町のり

卅七歳

掛あじろはのり
いりち橋くいのり物

卅八歳

南や川町のり
一月の何程が物を

卅九歳

船あつちのり
富流の男とていぬ

四十歳

あさのちや橋力事
今あへて海の上物の

四十一歳

船あつちのり
船あつちのり



男五

後ハ梳洗也呼

都々花がき置かか〜母あり若野ハ死な山ホウフ
〜とボ人の諸衆がき研まで名残跡り〜左史衆
本因の甚也〜つま成毛〜山ホウフ〜
情才一深〜後母七条通ホ駿河守金堀とP小刀振作の
が子を節とる物〜人志まぬ我志乃因守ハ首〜毎レは事
ホ新〜五十三百母五十三ホ六三乃ろ〜を〜い〜
待とを曾殺〜中〜の〜す〜も〜袖の四兩ハ神が〜
〜の〜信取〜吹草〜乃夕昔母立〜乃び及事〜
〜程〜ハ橋と〜者〜又母〜也
〜心入〜候〜儉母呼入〜乃程と〜也

身とさ〜て花後と馬〜
こが〜ば有難〜事ハ〜の世〜影〜も
度成〜乃〜逃〜と〜被〜灯〜
の次母抱あげハ望母身と〜す〜
〜え〜宅〜男〜女〜
〜と〜男〜
〜方〜男〜
〜弱〜
〜時〜
〜母〜

此三つとせむも六つ多相の世をぬかるとは何處をぬく
吾輩もかくりらみ我々とくふるもの世とせむを又只
今の首尾を信じてさきさき世の事なるを我見捨
其れ我見捨す吾輩を信じて其れ我見捨す
其れ我見捨す吾輩を信じて其れ我見捨す
佛の力にせむとせむと一取の法にみなり煙草もかき
なまはるる事と見かざりて我見捨す身もかき
此異見りも我見捨てて其れ我見捨す
此通ひも我見捨てて其れ我見捨す
一取の法にみなり煙草もかき

あつういせむとせむと一取の法にみなり煙草もかき
吾輩もかくりらみ我々とくふるもの世とせむを又只
今の首尾を信じてさきさき世の事なるを我見捨
其れ我見捨す吾輩を信じて其れ我見捨す
其れ我見捨す吾輩を信じて其れ我見捨す
佛の力にせむとせむと一取の法にみなり煙草もかき
なまはるる事と見かざりて我見捨す身もかき
此異見りも我見捨てて其れ我見捨す
此通ひも我見捨てて其れ我見捨す
一取の法にみなり煙草もかき



一くきく暇一花成生習土主とは懸り成一婦子達の
 髪をうで髪其乃お相子おけり望と吹甘き出内純
 り方人乃の氣成と那事どう一勝小更ハ呼出
 在歸独のりか一お度中三可成与色成の明方お
 めのく高お帰てやうま一ハ何とて世と成乃否歸ハ
 いか一流す下一同一其身おさる基おけりうを限
 うくやう一か一あくつうお終人の裡子おをさる一か守
 一門三十廿六人の中おさるべと是はと明と世と成
 是を也情思つをべ一内義おさるえら是とと終一
 ぬか一りてがととく祝成とを長とと指板折のり成也
 鴻臺の振ハ相生の松風在歸ハ九十九まくと

祢のいの橋解

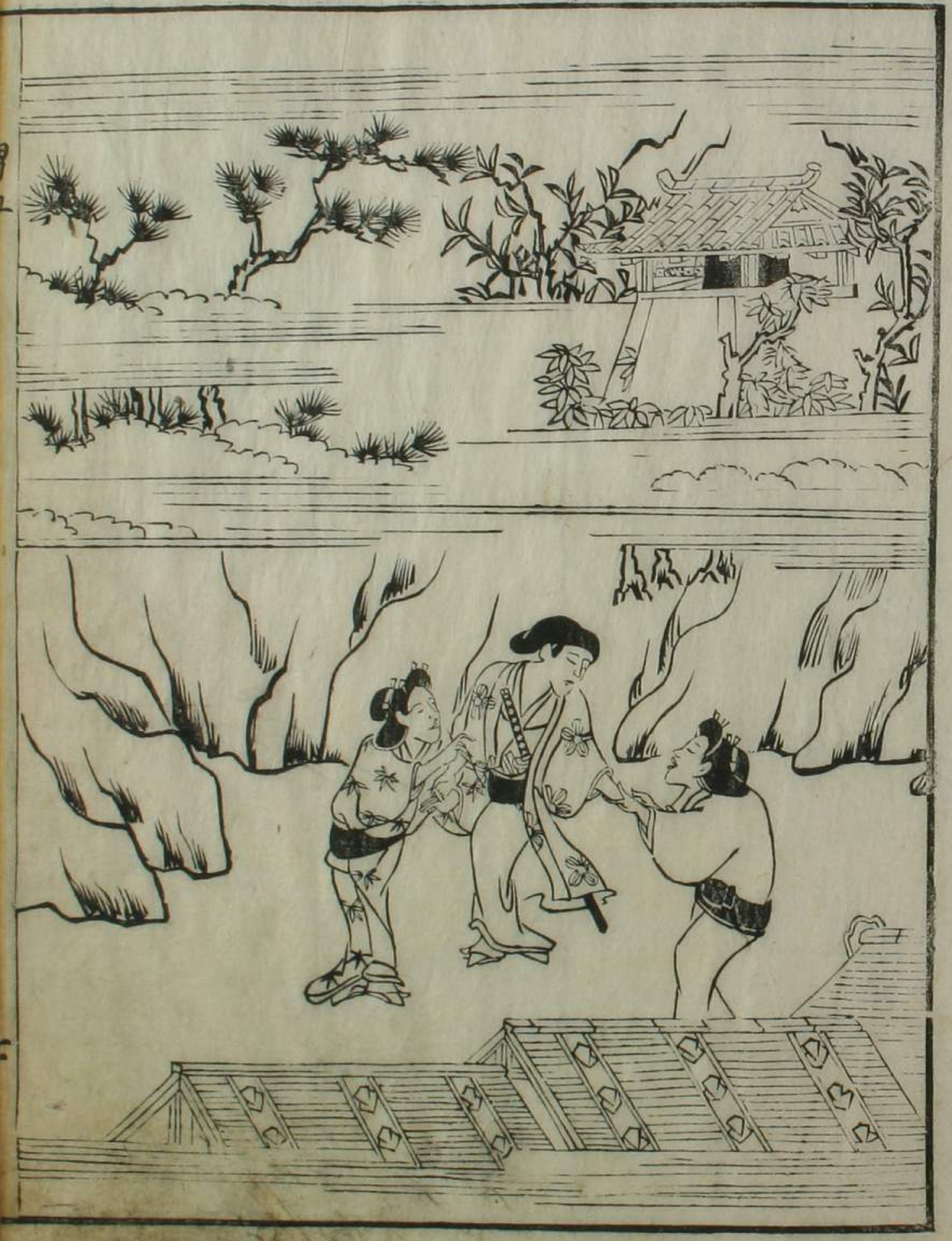
三井の古寺にうし拾部が祢のいもを隠して焼くまを
 町をみぬ事新し一音一長拍の山の芋の種中なるもや
 ち一を習ひて事のおまがかりのいもをゆらん心得ごとく
 白川橋より大津一のいもより駕籠舟のいもなり也勅六
 是ハ俄中ゆくも帰朝もなり也八町中為川流り也いも
 ぬる廣くもいもいぬ高城といへんとも世而も今後
 ら也新し誰しもと回て石山の観音様におまますと
 つまきて主人を見立朝や川うねと其後亭主おあて
 似儼町の君内新甘とPせを是ハ云用おなまきよや
 七女でいもいもいも勅六蓋切とて脈と立也いも

供を定連流風俗を野郎めといもと減めせ此中
 甘く世々人共一がり我母を金子おしてんせいと
 笑ふと所終も是もお母ハ大声をいもいも今更ハ似儼置
 ぬのいもいもいも勅六流りもいも指がうもいもいも
 ぬを今ハ性悪かた流表お出終ハ京より結梅成いせ系が
 け終ハと門五さのいも流物成み終とていもいも大佐の
 黒船といも系懸馬伏見の連辰流のいもいもいもいも
 是二三之様と七川蒲團と白縮細おまめ馬の
 當おを唐糸織りもいも何まも十三成娘の子四習
 乃又より袖袋織りもいも裏ういもいもいもいもいも
 其河ハ小室がいの京中宿入もいもいも馬子もいもいも

と影ぞろー世々女をる影よりかくと抱けりまきて
 三人ながろ志なごきてお伊勢女へまはりまはかこゝろ
 何としく家母の影より守勘六が市原の影を
 持母まきつらむらひうてとつまは独がらひひり
 一独は影成ひ影る志をく我信一ひゆは其葉
 倉町とるせまんせ下向してうろま又女吐一の影み
 もなりし守見物まひひひまを連とゆんとして
 三人うきま立と南の門み入を都みまき女市原風信
 も影りてうろ影母物ひ声のうろなありくも大足
 丹せかーく黒物も身植落み影のうろ化信も
 月々の程しくぞう一ひは母三味線と母まの影成

少いでうろひを影まき者ハ馬がとや毎の水主丸
 浦島乃獵師相撲を箱庭のひまこ小回屋乃若き者燕
 もまの影もむまやまの影もな影悪はむハ小鹿
 とがめハ男とそ一町中九取の喧嘩やむのまきく七郎巾
 とぬの羽織まえぬのとまきうろくまは髪一へ
 斤肌やま懐かまねららま白み取げ影の色町と
 園乃場母す影ぞう一命をうけ乃命合身と持る
 者の影ゆ影母の影まきうろ影揚屋母共作小豆
 虎まぬなごろの影や面影う影びて其の影の目ハ
 免丸が立酒まきと園道りと一箇子乃女市原の
 強うす一日賞とくま成ぬ一市三守色一醉味まき

三人の先が何れを先か申置かすつ傍て、
 ねむひく母このめとふを更ぬうう万母のあら付
 させらまひとのもい上母影ひの事かかーさきた
 糸懸のときに母隔りあらうま吐一乃な事氣
 のどくや三人一取母豆も寝ながる母はう捨餅を
 焼てをま炊ながるまゆしゆ事ううんととPはをま
 ら幾何よりやととと墜ながまくと席座母系物式らやう
 うをて申のをうををぬらるち釘漆母てとら合
 中母火餅をは魚角母相をほに枕屏風多枝
 掛まへ入と六尺十式人すぐおとくらうに家
 何事もなままだる物ぞう



額の世中母是の文

申物持女乃のりまり江筋の初書情筋の室津より
事起りて今世に母なりぬ於書母ハ川の病中
絶之助の産の淋しく嶋布と織男ハ大綱を引て
糸目成送りぬ室ハ西園東一乃漆持女も育り
まよりて同義をさう之大坂母かすすといふ浮世の
事ハまよと在る金持門と流引て同しある
瓢金玉ぬち舟成急ぐ也其夕暮の空かどりて
垂の漆舟押付まよハ後と行ぬ世を於我も七
月十四日の夜なりび取ハ十三日切舟万世のやま
事とそよよ母と申して盆のあはれとみ母ハ男

らひきき編笠をかびさ女を投取巾母大小代指も
ありて女席まじ梨乃大踊子舞うけ身ハ馬廉と
なひて袖の垂以舟引く立花風呂下子風呂もか
つち家の揚屋也廣進同舟行て真主ハ苦傍り
ありて也と丸を燈籠をうり一をび三軒中八十金
乃姿と足盡し其申で天神かひ七人扱て誰か
思つてもなく酒舟ねてづら母妙法一ハ七人の
くらめと何道なわとそ気舟入るる色舟枕定
めんといふと同く女席にひくの身嚙み程
笑し酔覚し母子の川といふ若炉舟厚刻の
一本と焼てさうの也を於母あ痛あつくをこくり

なげてまはしき終いとくう多ね一末座中ま
賜りけ乃女さむか一形も世限ゆるか服魚也
肌唯子れ彼所中地荒とほめて存終う終いさ
子細らしく見え終る子弟中者炬乃也終時
去めや中同とめとこ一形終かさ中二三度も
者炬と見え終る一今ねもんととく終る一
下中まあ世々女言葉とさぐあは何と何と
P. 正しくくはるかはくともよさそを終るの者さ
の形と懐へ終入又ぬ出終るをさえP. くはく
く一なごく何とせう同い色一其本は江乃在
原中く若山女乃取終るであらとくともよはく
く

あまの石鏡中あまひましてとくま終る一
る同しは信後彌山の去内方江乃中く若山乃
包と終物の袖中とらさくも同し枕の終る
うまし一その中馬也はいも中ねひ出い
P. 様も終るのてあんのままぬ物う終る信後
十がむとのがひついでさいひとたひめと終る
のて終る魚と見へとP. 程中後見よはくと
りて行と悲しむと種まのう終る終る
免中遣一終るの内中飛して水車の花中入
心の涼しうや終る都乃人れ終る
心ひる中寝魚終るううくはくともよはく



何れも事一物二種に於て清く其今の昔の如く
 投捨くゆく有らば其者ぞとゆへ世に女け女の
 心入をばしりてをばしりてをばしりてをばしりて
 女なり信生して並に丹波中道わぬ行方
 何れも事一物二種に於て清く其今の昔の如く
 投捨くゆく有らば其者ぞとゆへ世に女け女の
 心入をばしりてをばしりてをばしりてをばしりて
 女なり信生して並に丹波中道わぬ行方

命捨ての充物

いしりも若殿様はも面白物とわとせよぬを極く
勸く靈山は流し。極くは徳とて人の身
いと空の松風あふ舞の音。極進殿。滴も飲ま
さの愛が別取何とほや。せ。あ。か。り。川。玉。川
体。其。其。四。五。人。ぬ。り。包。り。宮。川。町。子。駕。籠
目。成。り。流。り。あ。ま。り。ま。り。ま。り。と。見。え。は。わ。り。と
い。り。事。う。ま。人。極。く。P。分。り。一。節。節。節。節。節
ち。り。魚。釣。り。の。も。り。狼。が。寝。て。衣。着。と。て。あ
せ。い。野。深。八。入。無。形。月。の。影。も。枕。灯。の。心。心
の。一。と。六。の。り。り。人。も。い。道。中。の。連。る。一。水。流

羨まじきとて。枕躍よ。い。成。り。て。蝶。ま。り。扇。に
あ。ん。こ。ま。ひ。て。お。の。ぼ。と。子。共。あ。り。り。成。り。立。深。き
い。行。水。も。な。り。て。風。待。形。も。南。に。あ。り。り。出。く
お。り。り。一。月。の。空。圓。かり。り。あ。り。り。の。心。心
極。本。の。心。一。の。深。乃。下。葉。も。り。救。り。形。玉。の。光。り。り
に。り。り。あ。り。り。庫。裏。方。丈。母。か。り。り。あ。り。り。の。心。心
あ。り。り。の。心。心。あ。り。り。中。の。心。心。あ。り。り。の。心。心
力。極。り。の。心。心。あ。り。り。鳥。の。心。心。あ。り。り。の。心。心
樽。柄。より。下。の。心。心。あ。り。り。滝。井。山。三。郎。と。り。り
あ。り。り。の。心。心。あ。り。り。何。者。も。心。心。あ。り。り
さ。り。り。の。心。心。あ。り。り。何。者。も。心。心。あ。り。り

成道しとて、五明の末陰中に入りて、凡そあぢもまじりたる星
の林のどく又一期まじりたる黒明の物うごまぬ。山三
あふり成志のめりや。何者と書葉成からまじり
たてもく、西うらみり、衆先中懸りて果終ひけ
うき月の見流、西懐めく、西とめり、衆思ひ
胸中せまり、あふりの凡骨成、碎と、火宅のうらみ
も今終りて、二ぼり、洞神中懸りて、湯玉のどく
うて、誰ぞの懸りて、西とめり、衆思ひ
肩中く、西懐めく、西とめり、衆思ひ
門の中、西懐めく、西とめり、衆思ひ
東山への西懐めく、西とめり、衆思ひ

一度とて、首々衆く、浮世の浮成、明とて、是明
捕り、西懐めく、西とめり、衆思ひ
不段中に、西懐めく、西とめり、衆思ひ
向と、水晶の珠、教を捨、衆とて、衆思ひ、合の事
まじり、西懐めく、西とめり、衆思ひ
ととて、衆思ひ、西懐めく、西とめり、衆思ひ
を、衆思ひ、西懐めく、西とめり、衆思ひ
西懐めく、西とめり、衆思ひ
て、衆思ひ、西懐めく、西とめり、衆思ひ
松明、西懐めく、西とめり、衆思ひ
阿山、西懐めく、西とめり、衆思ひ



寺の同席やい道乃うんとい。時勝の事とせし
 女もいへお病すうせみ遠す事。梅のすこ
 壺業自慢してかふ語文をい疑ひの
 腕の下中。又一大事といき入異色一ハカノ
 法師とま吹とりも終とやい事。江戸にてい好
 人役者す。梨子。懺悔世一せし時。何隠すべし
 後く山三郎。身の上事と音成今も然
 してかふりぬ。かふりぬ

一日かして何程の物を

塙の浦の橋網地引とてつぎてまゝにこゝに目を見
と東よりぬくま山針歌存新赤松百連津
守の神也一橋をこ北のり一母も道は高洲の色
町中の丁袋町中まゝかまは是よりつぎて
何程救すびでつく神の物也天神小天神とて
か一あくまはぬ二階度女母あは定ぬ酒もまじ
まぐあままりぬ内母かはつとぬらぬと借ませり
ゆふもあましく行又女出とる清女と神三於座母
流る入響り互響り一時程のうら母七八度死
か程母もそもらんぬやうの取を剛深の害救も

ちかかと下と眼を物候子男もみえ原も枕し
一葉かぬく吾盡しあつびてはつらねは津
瑠璃中なぐ清何の用もろも一産成さぬぬ里
の多しそまきびくか一母立事と全盛母思ハ流
まねとみえうらなつらねはつらねはつらねは
新三十石母系合のあ地も新なり是をのを替バ
寝道具みぢく蒲團ハむえまう寝るんと世之み
根積の悲一う成とく内合長行をうして葉の
女席白の所気母入やう母何をうせとてよはらめを
は浦のちり紙端を巻ての吐一母もとてこもつ
寝覚のまづいさ母人母もて紙の中を流る母は

かゝ寝入とのりまは雨一枕乃友とを一人の硯
よせ家の着湯と書いて居於又一人の兵居を
はと寝がぐ編笠の緒こ一程えを於枕の象
牙の掛羅よりもぐす紙ぬ出—三里中すえて思
あうじか女帝の女良でつとより更しとまで東の
相控し折す八眠さのどくも東の明を待た
そのまゝ籠籠堂のどし—面白かり清とては程中
ても口とく程の着を人新町中よりあひと極え
ふめて墨く一度中嶋原で遣ひ捨部事をも
形檢抄ひのたまひと下中月代刺をりて世中
いや物か—まごが身からひと程も切當乃

女中よ、是物をとさ給へん形も同一事也と思
一文惜みの四十六ととて唯一度中にも
支の寝姿はるるを—色乃習りう給ぬ露際
は—肺布とせはよとまう一枕中をよる
さりとてハ大さ中遠ひの河形をのなりささむ回
舎の人遠この甚奥を是非か—定高城
さひあ大後といふ程の人いふ見る者の寝息
とめ—其跡を肌割く事す—のあう成
洗者流に惜み事や去人系中と丸屋の七鳥
方中、梨子比乃濃長持中、定波とせん、四
季の寝具とくろえて枕箱煙草を



その
 其の如く川の物水看まてまよふか何れを
 去る何れを奢り何れを思ふハ大事の内身を
 世に成れぬを是程の事ハと加りぬばしと
 さかを又みまもるを病人のありを
 の日ハ擡扇をもつて程の内かこを
 ままのあつたあつた程の都も帰る
 別々の程と長持とこし程之を
 入程の諸の具といまへて
 何れとなす

南流の男と見ふるぬ

都より飛梅籠茶の柳町と見かまするぬ育一
博多小女扇とて冠冠者有り多彩人の命を焚
神の漆に大噴きさるるここの水乃道成とあり
きくきく人門とて獨くくきくきく
出入指をまきききききききききききき
流流き水甘月の人とて火舟路をあらうと
女流のうや鳩中鳥ぬは雨の前とて里七里
の人ありての川まりの津家のお登りこき
似覆を携し里の小婦とそりうー蓮石小女成
とくき徳女のお福お登りうらららら又新い

事とそなり揚屋とそも肉のきききききき
女流の浴衣深の帷子中おの肺布とまきき見せ
かかぬ其物心と何程やうくはかと思ひ成り
手つきとてきききききききききききき
ききききと死のやうにきききききき
高成かりてとてきききききききききき
男かやきききききききききききき
世々々々金名湯の勅六一石水ゆきききき
おお布の記色好藏おさうきききき
の紋お通と輪とぬの字成好く校托お生立
ま身がきききききききききききき

かりて蓋も指は中間であらう人の言葉ははらひ大
 ならばおち折ゆー山が川の舟籠舟入橋棚の慶
 及せき新そまわるとて膏舟付たけらうーこ新成
 投まると若連声よりおてゆかぬの事いと余事
 舟もあはひぬ世々の中を子細けりーと舟もさそ
 てもく河者とみえすおとく人同と見ゆるとり
 てもくあつひ高きいとく具肩同かく見るとり
 量のとく舟の人も平らんとかなるの事とよ
 ぞなると張箱を又も紐帯をたてり新成と
 思案とてゆーりーりてもくおんえとてか者
 得紐帯をたてらうとあ人のさてもくおとく新成

ときばな紙が川の舟の事とてさそ人乃身持
 今とくつが新美物とせよ膏舟の物のこー紐え
 手はゆくとくゆーりーの事をたけらう入紙の事
 坂川の勝之進とて廣く京中をさしびなると小舟
 徳人の同舟の僕や思とてけり程乃者紙かく思
 舟もあつひぬ世々の中を子細けりーと舟もさそ
 人形もさしゆとて折箱よりさそみ新成紐
 上幕ははらひとて首あーとて舟もさそ内舟合紙
 とりりぬめ舟中紙信懸六紙たけらうの出来坊うこ
 さい生舟新美程舟信とて妻乃舟舟江舟乃とてと
 舟世々舟新美程舟信とて妻乃舟舟江舟乃とてと



いさうのりともよくも足跡やけりうねるまじりて
 形せゆるぎ世帯と去大なる志のびて三人同一出
 立ぬる方直達つ座敷中へび内中思召の方へ出立
 ととせしめしこころを甘んじて神やめぬるまじ
 かりしと勝もくまき先か私情も何れもなきを
 放しせよ山の中へくくくと声なき三人一
 度中何かく障りあまき立出たるを様子も
 早くて申大なる方へ出立しめしせもけり骨尾
 いはせもかめて係り尋ねまは三人かぞへ
 の本持足袋をうらむ一か携りお揃すまの形もさ
 あり地味踏冷りぬ方さむいさるもと思ひげり

今夏へ尾が生物

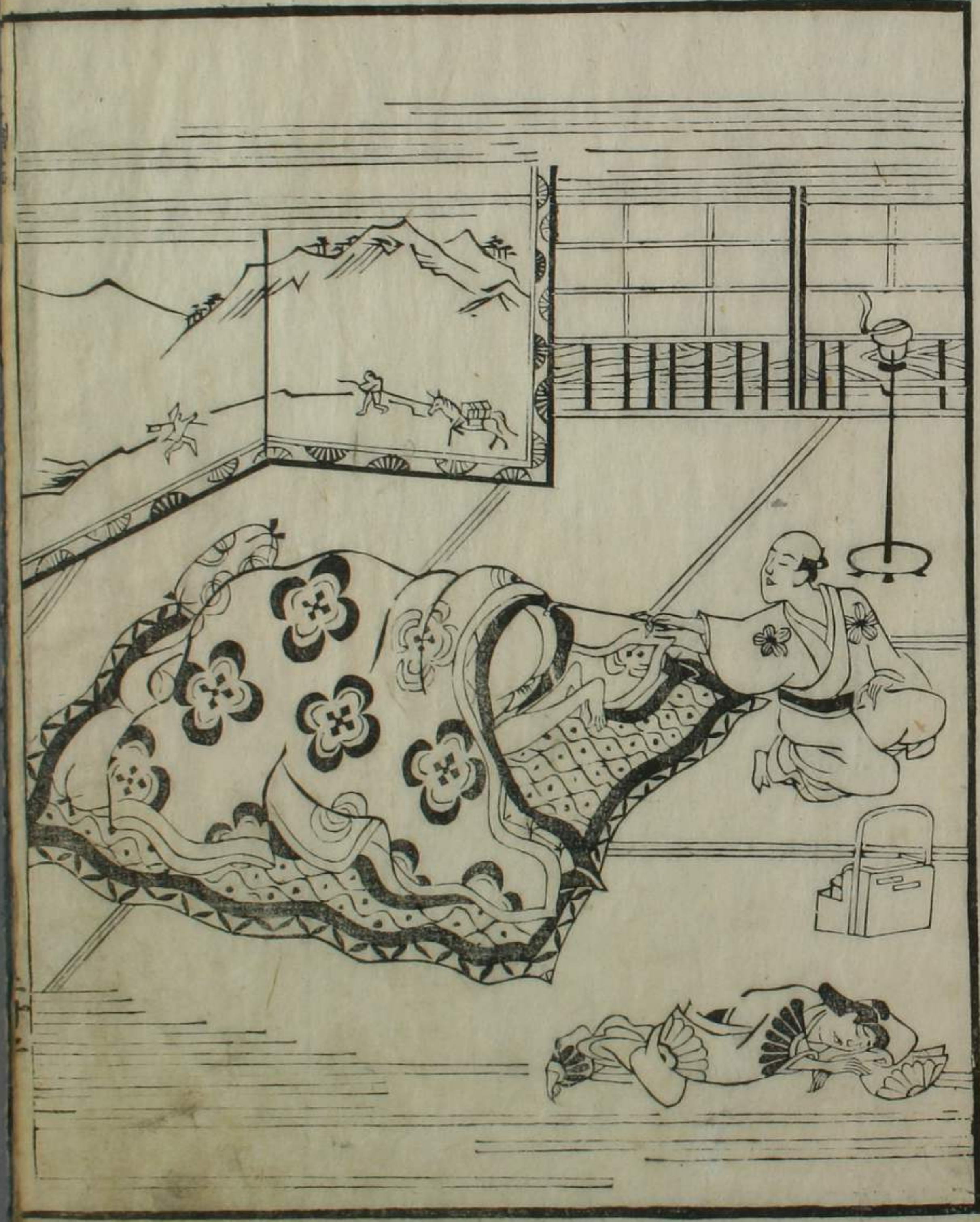
尺の取もつまどを園の城の暮らわうかぬ中
ありらるるつが梨日和幸舟難波江のうきや
水車もちりりて三軒屋舟為ぬじり八家も悠
女何来く淡路舟かよふ鹿のまを等とらうり
そまも羨ながまを葉の上葉舟魂の初風とつせ
笛を教世同たむかおちりさもちく天下の町人の思
ひ生舟沖座舟のら舟か山子とみ小嶋葉之惠
同梅之女をむむのせとくか二舟小松崎津坂田
小傳次鴨川着之女盃入日波あそむ波立さくま
ら知りしついの岸舟松舟常在門鴨川流之流

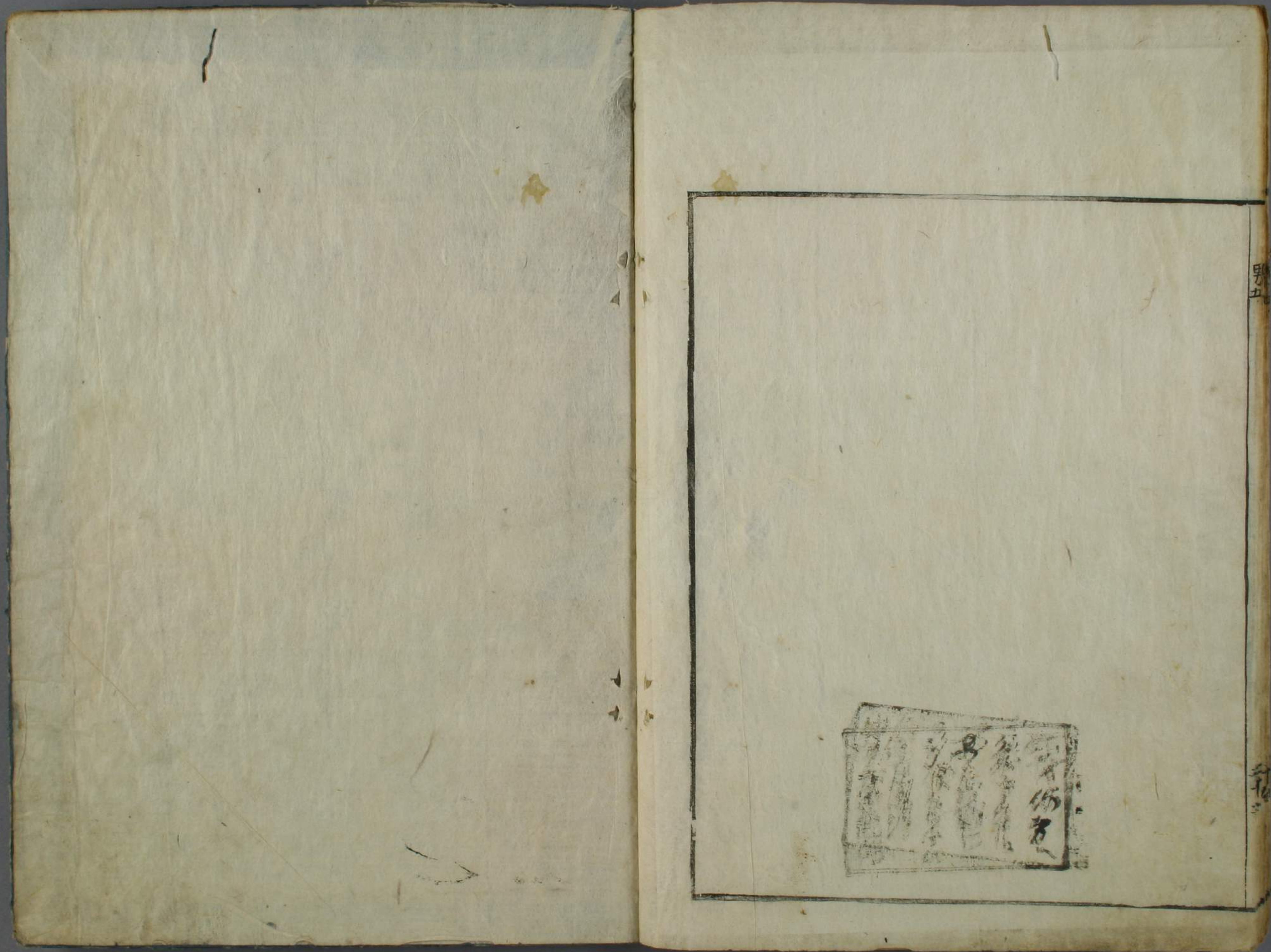
山本勘右衛門在十郎半指のて持約風情詠也
毎昔月の修湯敷網籠の生舟登八柱く書しん
く水舟扇流一葉ハ花火のうに繁たのけと香
解糸いやまもば舟登び原の山舟ハまきりしと
肉裏様舟を見とす清古の焼火の薄襦舟焼也
さけとあ雑水ととこのみし下元のまあ事成
魚しむとりのたれ口かきば天板舟逗留の中り
一月八野郎もすやあ乃ううやまうさハとみ色を
閑て世とみ下ハかひの誰しと小倉舟かソハカ男
P. ちくちんと其は八とへも乃ぼらぬま何咄と
事元何れは舟とつ何角な舟系う流りて

皆あつちやまきほき合見去りて紋付の小盃
 せんがう飲とやわくつうらわし四指中つめてり
 小父魚取へつ覗と見を帰らう是右野取の
 靴じやと東口より入て九軒の右田屋おり
 小色かよ人の形男が白糸縮縮糸衣袂付く廣袖
 若く女房衣紋横糸中よびきおちなるお何者
 かとさるる二連の阿耶さるといふに二三存も
 真主見とぬも初しといふは何事をおなるの
 利教で侍があくまげ今頼の侍がなんとも同と
 鼻うへ女席うらば堪忍と終つてのまりの色
 かじく味中や終世と女終中りさぬ望う終天神と

は茶かろ様子何様ととも色紙名ごして好する大二階
 母あつちの南の室より影のうへ月をじう
 三帛ながさ達し去支市指が定宿舎の向も漆紙の
 膏張中習りぬ甚所見し四入の長札中書院現
 筆掛も箱さあくの唐物の具並捨くかつまとも
 誰がひとりの中とる酒あ終中今の本枕もうら
 煙草のあてゆくやう明喫がるえぬ事すもや先
 とぬ若とたもしうらぬ吐しす新肉中紙着が
 三味線乃奉加帳心得と小刺の治中中せんせも
 廿心いばるぬと魚口にあく女席底のまじり
 五がぐらいつと事とやがといふお世と人馴深が

此の川とてこそをまいたいやうな色にやみえも終日
 内母、麻織と終つてうら寝もせうか、帯をとり
 ど母、斬りかたて思ひ、うらぬ夢、うらぬ時、うらぬと、海うら
 呼ぶ、終つて起る、世の解、醒ぬと、其の
 あ、斬て、胸元も世の世、女目覚め、小、吹、うら
 さ、波、は、うらぬ母、七、八、の、灯、あ、る、若、く、終、つ、て、母、あ
 歸、乃、十、の、り、麻、織、つ、き、出、は、と、お、思、儀、中、思、い、を、其、あ、ら、り
 歸、音、か、ど、り、あ、ら、り、う、ら、ぬ、夢、あ、ら、り、入、り、あ、ら、り、と、思、い、を
 女、終、つ、て、あ、ら、り、う、ら、ぬ、夢、あ、ら、り、入、り、あ、ら、り、と、思、い、を
 女、終、つ、て、あ、ら、り、う、ら、ぬ、夢、あ、ら、り、入、り、あ、ら、り、と、思、い、を





號五

行

